

## 平成19年度私立短期大学図書館担当者研修会

### 【研修会の主題】

短期大学図書館の新たな在り方を考える

### 【目的】

近年における短期大学の教育は、急激な社会の変化と改革に対処して、その運営に当たっている。特に私学においては、建学の理念によって、特徴的な教育を実践しており、そのための情報の提供などに図書館が果たす役割は重要となっている。近年における短大図書館は、四大との併設館、あるいは単独館として、さまざまな問題に対処しており、これらの問題を図書館情報委員会においても研究を続けて来た。本年は図書館情報担当者の研修会を開催する年でもあり、これまでの研究課題を土台に、更に前進して21世紀の短大図書館の在り方を模索し、新たな短大図書館像を築き上げる指針としたい。研修会は次の三分科会で構成される。

第1分科会 短期大学図書館の自己点検・評価に関する研究

第2分科会 短期大学図書館のサービスの在り方に関する研究

第3分科会 Web2.0時代における図書データの現状と今後について考える

### 【開催期日】

平成19年9月13日(木)・14日(金)の2日間

### 【会場】

東京「アルカディア市ヶ谷(私学会館)」  
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25  
TEL03-3261-9921  
FAX03-3261-7760

[日程]

第1日 9月13日(木)

9:30~10:00	受付
10:00~10:30	オリエンテーション 開会挨拶
10:30~11:00	全体会 基調講演 「短期大学をめぐる最近の動向」 日本私立短期大学協会 常任理事・事務局長 佐藤 存 氏
10:30~11:00	講演 I 大阪青山歴史文学博物館のコレクション 大阪青山短期大学 理事長・学長 塩川和子 氏
13:00~17:30	分科会 第1分科会 『短期大学図書館の自己点検・評価に関する研究』 「短期大学図書館における収書と除籍を考える」 第2分科会 短期大学図書館の専門性からみた新サービスの あり方に関する研究 第3分科会 Web2.0 時代における図書データの現状と今後について考える —J-MARC からメタデータについて—
18:00~19:30	情報交換会

## 第2日 9月14日(金)

9:00～10:00	全体会 講演Ⅱ 「第三者評価をめぐる諸問題 —WASC/ACCJC の認定評価と学生の学習成果—」 国際学院埼玉短期大学 副理事長 第三者評価委員会 委員 大野博之氏
10:00～12:30	分科会 前日の続き (分科会ごとに解散)
14:00～	希望者のみ印刷博物館見学

### [参加資格]

私立短期大学の理事長・学長、図書館・情報関係教職員

## [研修内容]

### 第1分科会:『短期大学図書館の自己点検・評価に関する研究』

#### 「短期大学図書館における収書と除籍を考える」

一昨年度に行った「短期大学図書館の自己点検・評価についてのアンケート」の中でも個々の図書館が抱えるさまざまな問題が指摘されている。特に短期大学図書館としての収書の問題や資料の除籍・廃棄に関する課題も多く、今回の研修会では、収集規定と除籍規定をテーマに取り上げてみたい。

先のアンケート調査の結果では、収書方針を持つ図書館は全体の約半数で、残りの図書館は収書方針がない状態である。短期大学の基準も踏まえ、各図書館がどのような収書方針を持って運営しているのかを調査し比較検討することで自館の収書方針策定の一助にしてもらいたい。また、除籍規定は、全体の約三分のこの図書館で所有している。図書館の狭隆化や資料の鮮度保持のためには除籍をせざるを得ないが、どのような基準で除籍するのか悩んでいる館も多いようである。今回は、各図書館の所蔵冊数や収納率、あるいは除籍理由を調査し、除籍の実態を把握した上で除籍方針を考えてみたい。

#### 1 具体的な調査内容

- (1) 収書規定の収集
- (2) 除籍規定の収集
- (3) 除籍実態のアンケート調査

#### 2 研修会の構成

- (1) 基調講演

『新たな視点を取り入れた短期大学図書館の収書』

- (2) 事例発表
- (3) アンケート調査結果の報告
- (4) アンケート調査結果の分析と提言

## 第2分科会:短期大学図書館の専門性からみた新サービスのあり方に関する研究

短期大学図書館のサービスのあり方について考える分科会としたい。

研修大会の参加者が、自分が所属する図書館の「サービス」と「利用」というキーワードから客観的に考え、利用促進と新サービスについて議論し問題点を見つけ出すための材料を提供したい。とくに今回は学部・短大の複合館でなく、短期大学(単独館)のサービスの現状を共通理解することに比重をおき分科会を進めたいと考えている。

研修大会は以下の進行でおこないたい。

1. 基調講演短期大学図書館のサービスのあり方について
2. 事例報告 1
3. 事例報告 2
4. 事前にとられたアンケートの集計報告
5. 質疑応答討議

## 第3分科会:Web2.0 時代における図書データの現状と今後について考える

### ーJ-MARC からメタデータについてー

今日まで、書誌データについては J-MARC が標準データとして日本においては普及しています。

しかし、インターネットの時代になりネットの普及に伴いグローバルスタンダードとして MARCXML が登場しました。今後の世界標準となる可能性が考えられる状況となりました。これらは新しい図書館システムの中においても採用されつつあります。

このメタデータとはどのようなものか、どのような可能性があるのかなどについて研修する。

- ・ 図書館情報委員会 HP の運用について
- ・ HP についての情報発信
- ・ 効果的な情報の検索法について

※本分科会参加者のみなさんは無線 LAN の機能を持つノートパソコンを持参してください、それらを使用して実習を行います。

## 〔講演趣旨〕

### 講演Ⅱ

#### 第三者評価をめぐる諸問題

##### －WASC/ACGJC の認定評価と学生の学習成果－

#### 要旨:

世界の先進主要国は、国際競争力強化等の観点から大学の教育研究水準の維持向上を目指し、大学評価を改革の重要テーマとして、積極的に大学改革に取り組んできている。アメリカでは、伝統的に、大学や専門職団体の組織するアクレディテーション団体が、自発的に大学を機関単位あるいは専門分野単位で評価し、当該団体への加盟判定を行ってきた。またイギリスでは、それまでの大学の研究評価に加え、1993年からは大学の教育評価も行われるようになった。フランスでも1984年に大学評価委員会が設置され、ドイツにおいても1998年の高等教育大綱法改正により、大学に定期的な第三者評価とその結果の公表を義務付けている。さらにED諸国においては、各国に共通する指標を定め、ヨーロッパレベルの大学評価を行い、高等教育全体の質を向上させようとする取組が進められている。我が国においても、自己点検・評価の充実や大学評価を通じた大学改革が進行途上にある。人材以外に資源の乏しい我が国が国際社会の中で発展していく上で、大学の果たすべき役割は極めて大きい。また、経済社会全体の発展を可能とするためには、国際競争を担う人材育成だけでなく、社会を支える良質で勤勉な多数の人材の育成が不可欠であることから、短期大学が果たすべき役割もまた極めて重要である。大学の質の向上については、大学が自らの教育研究活動や組織運営などについて、不断に自己点検・評価し、更なる改善方策を探るとともに、認証評価の制度の活用を図りながら高等教育機関としての充実向上を図っていくことが期待されているところである。

我が国の第三者評価(認証評価)は、既に100年以上の歴史を有しているアメリカのアクレディテーションに範をとって始まった。文化の違うシステムを導入し、成果を上げるか否かは、関係者の相互理解に基づく制度の運用に大きなウエイトがかかっているといっても過言ではない。このことから、今般は『第三者評価をめぐる諸問題～WASC/ACGJC の認定評価と学生の学習成果～』のテーマのもと、アメリカ西地区大

学認定協会(Western Association of Schools and Colleges)の短期高等教育委員会(Accrediting Commission for Community and Junior Colleges)における認定評価の歴史、認定基準、並びに認定評価団の形成と評価員の責務等を概観する。同時に(財)短期大学基準協会が実施する第三者評価について、学生の学習成果に焦点を当てた自己点検・評価報告書の作成の要点について報告する。